

# めあて 身につく学びの方法を調べる。

聞くだけでは覚えぬ。聞くだけよりも9倍身につく方法。

\*数(%)は記憶に残る割合を表しています。

1. 聞く (10%) 学校の授業などに代表される「講義」というスタイルは「聞く」ことが主な学習スタイルしかこの「聞く」は記憶への定着率は10%。

↑5%

2. 見る (15%) いわゆる資料や黒板の板書など視覚情報の方が「聞く」よりも定着率が増化するそうです。

↑5%

3. 聞く&見る (20%) 既出の「聞く」「見る」を組み合わせると、定着率は20%に上昇するそうです。

↑20%

4. 話し合う (40%) 学ぶに関することを話しあうと、「聞く&見る」の2倍の定着率がつくそうです。話し合うと他の人に意見も身につくからです。

↑40%

5. 体験する (80%) 学ぶに関することを実際に体験すると80%が記憶に定着するそうです。成功するだけでなく失敗しても「体験」したほうが学びは身につくかもしれない。

↑10%

6. 教える (90%) 学ぶは人に教えると記憶への定着率が90%になるようです。たしかに説明ができるということは自分もかかっているといけなから。

## まとめ

人が人の話を集中して聞くことができるのは15分間だと言われています。約2500年前に有名な老子は、こんなことを言っていたそうです。

聞いたことは忘れる

見たことは覚える

やったことはあがる

AAA IP

自らが話すだけではなく教られる人にも「発見」や「体験」最後には「教え合う」のおなスタイルにできるとより定着率も高まるかもしれませんね。

(ふ) 教えるが定着率が高いことを知ってびっくりした。